地域と世界つなぐ酒づくり

真野鶴、尾畑留美子専務、三条商工会議所プレミアム女子会過去最多

海外輸出への挑戦、廃校を再生させた学校蔵など、需要減にさらされている清酒業界にあって、新販路開拓、需要喚起の手法が注目されている佐渡市真野新町、尾畑酒造㈱。同社専務で映画業界から、家業の酒蔵を継いだ尾畑留美子さんは「成功をするためにこれをすればいいというのは、私には分からなかったし、今のところ分からない。私が学んだのは、私にはこれは合わないという教訓。これが一つひとつ増えている」と、その取り組みを振り返った。

三条商工会議所工業部会（山井太部会長）主催の「はたらく女性のプレミアム女子会Part3」で、講師として話したもの。プレミアム女子会には、これまで三回で最多の四十五人が出席した。

尾畑さんは、県立佐渡高校、慶応大学法学部を経て映画会社の宣伝部へ。「氷の微笑」、「レオン」といったヒット映画の宣伝プロデュースも手がけた。映画業界から転身し、二〇〇二年から直接取引で清酒の海外輸出を始めて、今ではエールフランス航空、ベトナム航空、ガルーダ・インドネシア航空の国際線三社が同社の清酒を採用。世界最大のワイン品評会「インターナショナルワインチャレンジ」の清酒部門で二〇〇七年、二〇一四年、二〇一五年に金賞受賞、国内でも全国新酒鑑評会では十一回、金賞に輝いている。

日本酒度や精米歩合等で示される「機械で言えば機能ばかりでは、本質的な魅力が伝わらない」と、酒米が作られ、酒が醸し出される風土、すなわち佐渡島を発信していく姿勢で、「日本酒には地域を元気にする力がある」と話し、地域性にこだわった差別化、ローカルコミュニケーションの活性化などを、清酒の魅力にしていった。

家業とはいえ、まったくの異業種から参入して得た自らの教訓を七項目で端的に語った。

①ルーティンをしないは、「作品一本、一本が全く違い、毎回新しい気持ち」だったという映画業界の経験から。「ルーティンをしていなければ、変化が怖くない」。

②似た人とつるまないのは、「似た人に囲まれていると、言わなくても分かるのでズルしてしまう。やったつもりになってしまう。似ていない人といる方が、化学反応が生まれる」。

③居心地のいいところにいないのは、「何にも気が付けないため。私はワイン愛好家と付き合うようにした。まったく知識は無く居心地は悪いが、気付きがある」。

尾畑さん

④買って下さいと言わないのは、「輸出の経験から、むこうが私を見つけてくれた時にこそうまくいく。もちろん全く売り込まないわけでないが、見つけてもらう努力をしている」。

⑤生産者発信だけじゃない「生産者こそ、消費者の顔が見えることが必要。輸出を始めると、佐渡に外国人が来てくれるようになった。田舎だと外国人との関係が近く、人に会いにまた来てくれる。スタッフも何のために自分たちが仕事をするのか、どこにどのように届いているのか見えるようなると、一つひとつの仕事の仕方が変わってくる」。

⑥トレンドを追わないのは「トレンドになると、そのうち時代遅れになるため。棚の取り合いはしない、金でとってきたものは、金でもっていかれる。お金で見えないものを作るのが一番強い」。

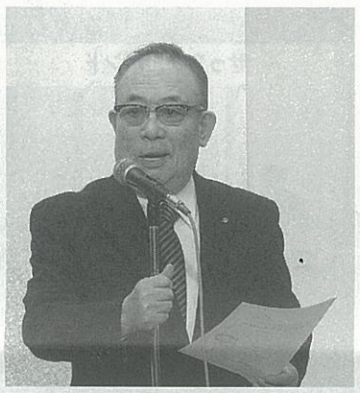
⑦東京をゴールにしないのは「ニッチなものを作り、それを東京に集めては、ニッチな棚の取り合いになる。東京をゴールにしないことで佐渡のハンディがプラスになり、個性が際立ち、アピールすべき魅力が見えてきた」。

「日本一夕日がきれいな小学校」という旧西三川小学校を改装、酒造り、学び、交流、原材料からエネルギーまでオール佐渡産をめざす環境にまで配慮した学校蔵は、芝浦工業大学、東京大学、鼓童、藻谷浩介氏、玄田有史氏らとの化学反応を引き起こした。

「二人の娘のうち、どちらかに酒蔵を継いでもらうため、島で終わる酒ではなく、地域と世界をつなぐ酒造りを目指したい」と、今後の目標を掲げ講演を結んだ。（外山）

食の魅力を6社がプレゼン

食品オーナーPR事業「三条のおいしい話」


樋口部会長

三条商工会議所食品関連部会（樋口洋平部会長）は、十四日午後六時から三条市横町二、餞心亭おゝ乃で元気ある食品オーナーPR事業「三条のおいしい話」を開催。同商工会議所の会員事業所から三十人ほどが参加した。

三条発の魅力ある食品を提供する企業の、自社商品やサービスのPRの場として初めて開いたもの。佐久間食品㈱の佐久間康之さん、「野菜の食卓 Vage Table（ベジテーブル）」の白鳥賢さん、日本料理「魚長」の本田芳久さん、だし屋ジャパンの五十嵐英志さん、ふーど工房ゆうこの五十嵐祐子さん、餞心亭おゝ乃の大野信一さんの六人が、それぞれ五分程度のプレゼンテーションを行った。

はじめに樋口部会長があいさつ。参加者に感謝の意を表した上で、「三条のおいしい話が聞けるということで、きょうは非常に楽しみ。プレゼンされる方には、自分らの商品を精いっぱいPRしていただきたい」と呼びかけた。

プレゼンでは、発表者が思い思いの手法で積極的にPR。内容は、自社の沿革や概要、コンセプトなど総合的なものだったり、商品紹介に焦点を当てて話を進めたりとさまざま。今年の夏に豆乳ジェラート店をオープンすることを発表した佐久間食品など、それぞれが語る今後の事業展開やビジョンについて、熱心に聞き入る人が多かった。

また、魚長は「ゆば土豆腐」、だし屋ジャパンは「出し汁」、餞心亭おゝ乃は「海老らーめん」の試食を実施しながらプレゼンを行い、会場からは「うまい！」と舌鼓を打つ参加者の声が多く聞かれた。（山口）

桐子を探せ
ishimoku.co.jp

遊んで1年間振り返る

地域子育て支援センターきらら「ありがとうの会」

社会福祉法人吉田福祉会が運営する地域子育て支援センターきららは、十六日午前十時三十分から、「ありがとうの会」を開催。十二組の親子が参加した。

年度最後のお楽しみ会ということで、今年度一年間の思い出を振り返りながら、新年度からこども園などに通うことになる子どもたちにお別れしようというイベントで、同センターを利用する子どもたちが集まった。

はじめに、一年間遊んだ手遊びや子どもたちに評判の良かった絵本を読み、ダンスや手遊びを行った。絵本の読み聞かせでは全国的に人気の「きんぎょがにげた」のときに、子どもたちが絵本のページに隠れた金魚を探し指さすなど大盛り上がり。また、ダンスではイタリアの歌謡曲にインパクトのある歌詞をつけた童謡「鬼のパンツ」が人気。節分などで定番の人気曲に乗せて元気よく踊っていた。

最後は、玉入れゲームで盛大に締めくくった。

なお、この日のおやつは、四月から併設のきららおひさまこども園に通う子どもいることから、いつものベビーせんべいではなく、こども園で出されるせんべいなどが出された。この日は、センター内に一年間の各行事で撮影した子どもたちの写真が飾られており、親子でテーブルに座って、おやつを食べながら、一年間の思い出に浸っていた。（細山）

シルクフラワートピアリーづくり

燕三条Wingで4月16日

造花を使って、植物を人工的・立体的に形づくる装飾物「トピアリー」を作る催しが、四月十六日（土）、JR燕三条駅内の燕三条Wingで行われる。

置物やアロマオイルを垂らしてディフューザーにも使えるトピアリー。今回、造るのは小さな丸い形の植木鉢をイメージしたもの。シルクフラワーを使うことで、気温や日当たりに関係なく、水やり不要なトピアリーを作る。

講師は、三条マルシェなどにも出展し、ワークショップも行う「Chocotto*～Happy hand made～」の山﨑雅代さん。

午前十時三十分から正午まで、午後一時三十分から三時までの二回開催。参加費は一千五百円、各回定員八人で先着順。小学三年生以下は保護者同伴で。

申し込み、問い合わせは、燕三条ブランド推進室（TEL 0256・36・4123）へ。